

「責任持って仕事したい」

外国人介護福祉士養成事業 1期生卒業

レさん(ベトナム出身) 今月から町内で勤務

南部

南部町と八戸学院大短期大学部、町内介護施設連携による「外国人留学生介護福祉士養成支援事業」の第1期生1人が卒業を迎えた。レ・ティ・ゴック・ディエップさん(28)はベトナム出身が見事資格合格を果たし、4月から町内の特別養護老人ホーム「ハピネスながわ」で正社員として勤務する。レさんは「相談できる場や多くの助言があり、安心して勉強できた」と感謝を語った。(佐々木祐紀)



工藤祐直町長(右)へ介護福祉士資格取得などを報告するレ・ティ・ゴック・ディエップさん

同事業は産学官が連携し、住居提供や学費減免、就職先確保など支援し、介護現場の労働力不足解消を目指す。コロナ禍による渡航制限で受け入れ開始の遅れはあったが、2022年度にレさんが入国、入学し、本格的にスタートした。レさんは学業と並行して同ホーム

でアルバイトにも励んだ。元々日本語堪能だったが、2年間で一層上達。南部弁も聞き取ろうとする姿勢や明るい性格、介護技術の高さから利用者から信頼を得ているという。ボランティアなどの学外活動にも積極的に取り組んだ。

3月27日、レさんと同大、施設関係者が町役場に工藤祐直町長を訪ね、卒業と就職を報告。工藤町長は「努力が実り素晴らしい。留学生の後輩の励みになり、介護連携事業のモデルケースになり得る」と激励。感染症拡大の影響で事業が難航しただけに、万感の思いがにじんだ。多くのサポートへの謝意を示したレさん。今後も町内で生活する予定で「今年もサクラランボ狩りに行きたい」と日本や町の暮らしにも慣れた様子だ。即戦力として期待されていることを受け「学んだことを生かし、責任を持って仕事したい」と目を輝かせた。